資料１－１

広里地区における湿原再生について

（調査・事業の流れ）

【目的】　「釧路湿原自然再生事業基本方針」に基づき、広里地区の自然をパイロット的に再生すること。

↓

【予備作業・検討】

Ⅰ．植生群落区分により地区内を７区分にゾーニング

Ⅱ．地区内の再生事業の優先順位を検討

（→①農地造成跡地の湿原再生、②ハンノキ林の湿原再生　とする。）

Ⅲ．再生サイト（再生区）に対するリファレンスサイト（標準区）の候補地検討

（→広里地区内に設定が可能。）

↓

【目標設定】

①農地造成跡地→１９６０年代後半（＝広里地区の農地造成前）の姿に再生することを目標とする。

②ハンノキ林　→調査結果を踏まえ、検討する。

↓

【評価項目の検討】

評価項目：植生（組成・構造）

動物（タンチョウ・キタサンショウウオ等の注目種、生物多様性）

物理環境（水位、水質、地下水の流れ）

↓

【調査】

広里地区詳細環境調査

◆植生詳細解析調査：現存植生と環境条件（水位、水質、地形等）の対応関係を明らかにし、農地造成跡地やハンノキ林の処理の方針を検討する。

◆地下水動態解析調査：地区内の地下水収支（動態）の現況を把握・分析し、再生サイトでの最適な事業内容を検討する。

◆野生生物等詳細調査

◆タンチョウ・キタサンショウウオの生息実態・特性調査

◆詳細地形図（標高図）作成調査、植生略図（現存・過去）作成調査

→調査結果を踏まえ、【目標設定】及び【評価項目の検討】にフィードバック

↓

【事業内容・手法の検討と仮説設定】

↓

【事業実施】

↓

【モニタリング実施・評価、仮説検証】

↓

【事業見直し】